

観光振興と協力の可能性

アゼルバイジャン政府は、産業多角化(脱石油ガス依存)による経済成長を目指す中、観光を重点分野の一つとして挙げています。日本との観光分野での関係発展の可能性について紹介いたします。

1. アゼルバイジャンの観光資源

当館作成のアゼルバイジャン紹介資料(ホームページ掲載)に記したとおり、同国は豊かな自然、文化、歴史に恵まれた、大変魅力的な国であり、観光資源も豊富です。近年、政府は観光地整備の取組を進めており、2019 年にはバクーの「燃える丘」の整備が完了、現在は「泥火山」の整備が行われています。また同年、北西部に位置する古都シェキの歴史地区及びシェキ・ハーン宮殿が世界遺産に登録されました。

2. アゼルバイジャンの外国人訪問客数

当国を訪問する外国人数は、2015 年の 201 万人から 19 年の 317 万人へと増加中です。国別ではロシア(93 万人、19 年、以下同)、ジョージア(73 万人)、トルコ(32 万人)、イラン(26 万人)の順で、近年はサウジアラビア(11 万人)、UAE(7 万人)、イラク(5 万人)、イスラエル(5 万人)等の中東諸国や、インド(7 万人)、パキスタン(5 万人)の伸びが目立っています。一方、日本からは 6 千人とかなり少ない印象ですが、2009 年の 1 千人、15 年の 3 千人から大幅に増えており、今後一層の伸長が期待されます。(2020 年はコロナ禍により訪問客数が下落しますが、いずれ元の増加基調に戻るものと予想されます。)

3. 観光振興の担当政府機関

アゼルバイジャンの観光振興を所管する政府機関として、国家観光庁(State Tourism Agency)があります。また、下部組織として観光振興事業を担当するアゼルバイジャン観光局(Azerbaijan Tourism Board)が 2018 年に設立されました。

(URL) <https://www.tourismboard.az/#>

4. ナギエフ国家観光庁長官からのメッセージ

ナギエフ国家観光庁長官から、日本との観光分野での関係強化に向けた強い期待が寄せられました。以下、長官からのメッセージの概要です。

「今年(2020 年)は昨年比 2 割増の外国人観光客を見込んでいましたが、残念ながらコロナ禍で実現できませんでした。この間、マーケティングやインフラ整備などに取り組んでおり、バクーから伸びる 5 本の高速道路上に公共トイレやカフェを順次整備しています。」

「日本人観光客の誘致は我々の大きな課題であり、日本の観光庁との政府間協力やエージェンツを招いての FAM ツアー実施などを通じて、連携を強化していきたいと考えています。」

「アゼルバイジャンと日本との間の旅客直航便の就航も具体的な検討段階に進んでいました(コロナ禍で中断)。我々は、アゼルバイジャン(バクー)とイスラエル(テルアビブ)との間で、2 ウェイ(双方向)チャーター便から定期便就航へと繋げた実績があります。」

「今後、日本の皆さんに向けて、アゼルバイジャンの魅力や豊かな観光資源の情報発信を充実させていく考えですので、ご要望などがあればぜひ我々にコンタクトください。」

「なお、ナゴルノ・カラバフと周辺地域には、美しい自然や豊かな歴史(約 900 の歴史・文化遺産)があり、解放された地域では政府が経済社会整備を行う予定ですが、当庁も既に同地域での観光インフラの投資計画に着手しています。この中で日本側とも協力できる取組もあるのでと考えています。」

(以上)